

令和3年度 芦安小学校前期自己評価書

1 評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ 学校運営・学校経営」、「Ⅱ 学習指導」、「Ⅲ 生徒指導」、「Ⅳ 保護者・地域との連携」、「Ⅴ 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対する回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う

B：ややそう思う

C：ややそう思わない

D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

- ・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づいていく。
- ・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり、1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者、児童数ともに、アンケート数は少ないが、2学期以降、共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものもある。

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 全体評価

教職員・児童・保護者のアンケート調査の結果は、昨年度後期の傾向はほぼ同様である。全体を通じて、肯定的評価であるが、値が下がっている項目がある。

芦安小学校の教育活動が、保護者の理解と協力を得ながら、コロナ禍であるが、それぞれが工夫を凝らして授業や行事などを実施してきたこと、また、児童が充実感と向上心を持って学校生活を送っていることが見てとれる。

Ⅰ 学校運営・学校経営

〔達成状況〕

おおむね良好な状態である。多くの項目で肯定的な評価が得られている。教職員と児童のコミュニケーションについては、昨年同様に高い評価になっている。校務分掌が適切に機能し、教育活動全般に対して組織的に対応できている。また、不登校児童に対して、市や教育委員会、SC やSSW を含め外部機関と連携して対応してきた。

〔改善策〕

児童の出欠席・保護者の要望、また、アンケートなどから登校への意欲が低いもしくは、学校へ登校できない児童への対応は、継続して行っていく必要がある。教職員だけでなく、外部機関や保護者との連携・協力を得ながら、焦らず柔軟に対応する必要がある。コロナ禍で多くの活動が制限されるが、校舎が隣接する小中一貫校の利点を生かし、小学生が憧れ、目指す中学生と接する機会を確保していきたい。

Ⅱ 学習指導

〔達成状況〕

保護者・教職員のアンケートから、基礎基本の定着に向けて、授業の決まり（芦安スタンダードなどの）を守る中で、授業改善が確実に進められていたこと、児童・保護者アンケートから、一人一人に合わせたきめ細かな指導が行われていることが分かる。

課題として、友達と距離を置いての机配置やマスクをして友達や担任の表情が見えない授業などの影響もあり、楽しい授業や活動、発表・話し合い活動が十分にできていないことが読み取れる。

〔改善策〕

楽しい授業・わかる授業の実戦に向けて、少人数教育を活かした従来型の個別指導で、基礎基本の定着を目指すと同時に、ICTなどを活用して、自ら学ぶ楽しさ、より多くの世界や仲間から情報交換して学ぶ楽しさ感じられる授業づくりが求められている。また、芦安小学校ならではの「リアルな体験」（自然体験活動や生活科・総合的な学習など）を生かしての学習を継続していきたい。

Ⅲ 生徒指導

〔達成状況〕

教職員・児童・保護者のアンケートから、教職員全体で、児童一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら児童理解、共感的理解に努め、信頼関係ができていることが読み取れる。

また、複数の児童・保護者から、いじめの問題、友達同士の関係、教職員の児童理解に対して、不十分だとする意見があったことも看過できない。

〔改善策〕

児童相互の理解やコミュニケーション力を高めるための取組（スマイルタイム＝自分の意見や考え、好きなものを友達に伝える活動など）を継続して行ってきたい。生徒指導上の課題は、全教職員で共有し、できるだけ早い対応を心がけるとともに、担任から保護者へ電話連絡を入れ、保護者の声を聴く機会を増やしてきた。また、いじめは決して許されないこと、学校生活の中でけじめをつけることについては、強く指導していきたい。

Ⅳ 保護者・地域との連携

〔達成状況〕

保護者（地域）の連携については、昨年度実施することができなかった「PTA 総会・授業参観・学年部会」、「学校林整備・清掃活動」は、実施することができ、少しであるが前に進むことができた。しかし、「あしやす新緑祭り」・「授業参観」などが中止を余儀なくされた。

学校だより・学年だよりを通して保護者・地域への学校教育活動の情報提供を行ってきた。毎年意見として出されていた学校ホームページ（学校のひろば）による児童の活動の様子を伝える機会を増やすことができた。

〔改善策〕

今後も、コロナ禍であるが、保護者との情報交換の在り方（ICT の活用）を工夫するとともに、担任が直接保護者へ情報を伝えること、保護者の声を聴くことを行っていきたい。

同様に、学校行事やPTA活動を直接参加・参観していただく機会は、制限されるが、芦安小中学校の伝統・文化を大切に、保護者や地域の方々の理解と協力を得る中で計画的に教育活動を進め、ビデオなどを通じて児童の様子を伝えていきたい。

Ⅴ 学校の特色ある取組

〔達成状況〕

「学校林整備・清掃活動」や「夜叉神登山」「櫛形山登山」「ユネスコエコパーク学習支援事業」など、多くの自然学習・体験活動を実施することができた。

一方で、小中一貫教育・活動については、1学期だけでは、共に活動する機会が少なく、十分にできたと言えないところがある。

〔改善策〕

「芦安郷育」「小中一貫教育」は、今後も芦安小中学校の柱となる。そのためには、保護者や地域の声に耳を傾け、信頼を得て、連携・協働しながら教育活動を充実させていきたい。校内研で取組んでいるICTの研究・実践を通し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「(リアルな)体験活動」を通じて児童生徒の学習を進めていきたい。

学校教育目標を見据え、本年度の活動の反省をもとに、「小中一貫教育」のさらなる充実に向けて、全職員が協力して、今後も特色ある取組を推進していきたい。